

## サークル名      ハンドポスト

**発表者**      社会福祉学科3年生  
                 二子石 拓也(前部長)

**活動分野**    聴覚障がい(児)の支援

**部員数**      79名



定例会の練習

こんにちは、ハンドポストの二子石です(図1)。よろしくお願ひします。それでは、ハンドポストの活動報告を始めます。

今日は私たちの活動を知ってもらうために手話通訳をつけて発表したいと思ひます。手話通訳をしてくれる福永さんと品矢さんです。

まず、ハンドポストとはどんなサークルなのか説明をしていきたいと思ひます(図2)。ハンドポストとは、自ら手話を学んで聴覚障がい者の支援を行うサークルです。

また、今年には私たちの理念として(図3)、「手話を学ぶことで聴覚障がい者の生活を知って、対外活動を通じていろいろな方に聴覚障がい者と手話を知ってもらって、自らの視野も広げる」ということを掲げてやって来ました。

ハンドポストの歴史は古く(図4)、本大学前身の福岡社会保育短期大学の開学と同時に設立し、43年間続いているサークルで、現在は一年生から四年生までのメンバーで102名います。それでは、ハンドポストの活動報告をしていきたいと思ひます。

基本の活動としては、田川市の手話の会の聴覚障がい者の方を外部講師としてお招きして、毎週火曜日の放課後に2時間程度勉強会を行って、手話の能力の向上を図っています(図5)。

ボランティアとしまして本学の入学式、卒業式のイベントで手話通訳のボランティアをしたり、本学の学園祭や施設でのイベントで手話コーラスの披露を行っています(図6)。

また、今年には“ハンドポストの活動の幅を本学から地域に広げ、手話というコミュニケーションツールの獲得とその能力の向上を目指し、地域へ手話の啓発活動を展開する”ことを目標に、本学

の学園祭でのステージやショッピングモールでの手話コーラスなどを通じて、聴覚障がい者や手話を知ってもらう活動をしてきました(図7)。

この写真は歌手の fucchiE さんとのインスタライブの様子です(図8)。本学の卒業生であり、ハンドポストの先輩である歌手の fucchiE さんのイベントに参加させていただき、八幡のショッピングモールで手話コーラス・手話通訳を行い、啓発活動をさせていただきました。

次に田川地区の活動として、田川市立鎮西小学校にて聴覚障がいについての授業や全児童と共に手話コーラスを行うなど、新しい形での手話の普及活動を行って来ました(図9)。

これらの活動が評価され、財団法人学生サポートセンターの学生ボランティア団体支援事業にて採択され、助成金と表彰を受けさせていただくことが出来ました(図10)。そして、学長をはじめ様々な先生方のお力添えのお陰で、京都での表彰式に出席することが出来ました。

表彰式には、環境活動をしている団体や一次救命の普及活動を行っている団体、発展途上国に物資支援を行っている団体など多くの団体が出席しており(図11)、様々な形のボランティアを学ばさせていただきました。

最後に、ハンドポストとして活動しての総評と課題です(図12)。

良かった点の一つ目として、メンバー個人が手話能力を獲得出来たことです。毎週の勉強会に加え、ボランティアの手話コーラスをしてきたことで、聴覚障がい者と日常会話が出来るぐらいには成長出来たと思ひます。

次に二つ目は聴覚障がい者の理解が出来たことです。聴覚障がい者の講師の方を招いて手話を教

えていただいたり、希望者で田川手話の会の手話講座に参加するなどして聴覚障がい者の生活を理解することが出来たと思います。しかしボランティアや普及活動を行う立場からしたら、まだ聴覚障がい者への理解は不十分だと思います。

三つ目に活動の範囲が拡大出来た点は良かったと思います。ボランティアをさせていただくには、こちらのサークルの存在を知っていただく必要があります。また、私たちの勉強として、様々な方と繋がりを持つのは非常に重要だと思います。そのため活動範囲を学内や田川だけでなく、他の地域にも広げることが出来たのは良かったと思います。しかし活動範囲を拡大したことにより、今後

は地域の施設や団体と協力するという課題と、メンバー個々の能力向上という課題の二つが見えてきました。表彰式に出席している多くの団体が、支援と協力を得て幅広い活動をしておられました。私たちも田川市の手話の会からの支援をいただき勉強会等を行っていますが、まだまだ個々の能力向上には繋がらず不十分な状態です。これからは田川市手話の会や他の地域の手話の会と連携し、協力を得ることで幅広い知識の習得を目指したいと思います。

これでハンドポストの活動報告を終わります。ありがとうございました。

# ハンドポスト 活動報告

1

ハンドポストってなあに？

手話を学んで  
聴覚障害者の支援を  
行うサークルです

2

## ハンドポストの理念

聴覚障害者の生活を知って  
対外活動を通じて  
いろいろな方に知ってもらい  
自らの視野も広げる

3

## 歴史

福岡社会保育短期大学開学



43年間

現在:メンバー102名

4

## 活動内容

### 1. 勉強会

…週に1回二時間程度、学外の  
聴覚障害者の講師を招き勉強している



5

### 2. ボランティア

…本学の入学式や卒業式での通訳  
や施設のイベントでの手話コーラスなど



6

### 3. 啓発活動

…本学の学園祭でのステージやショッピングモールでの手話コーラスなどを通じて聴覚障害者や手話を知ってもらう活動



7

### fucchiEさんとインスタライブ



8

### 鎮西小学校ボランティア



9

ハンドポスの活動が認められ…

### 表彰を受けました！！

1月27日  
財団法人 学生サポートセンター  
京都支部にて  
・助成金  
・表彰状  
いただきました！



10

### 表彰式では



11

### まとめ・課題

- 手話の能力の獲得。
- 聴覚障害者の理解ができた。
- 活動範囲の拡大。
  
- 地域の施設や団体などと協力する。
- メンバーの手話能力の向上。

12

# TA 活動( Teaching Assistant Volunteer Circle)

養護教諭を目指して

**発表者** 看護学科4年生  
平野由理 平田美樹 楢田裕美子  
**活動** 学校教育支援活動  
**活動者数** 看護学部養護教諭過程4年生11名



こんにちは。私たち看護学部・養護教諭過程4年生11名は、田川市立伊田小学校と福岡県立直方養護学校の子ども達に対して、学校教育支援ボランティアを行ってきました(図1)。この活動を通して学んだものや見えてきたものを、報告したいと思います。

この活動をする上での私たちの行動目的は(図2)、学校教育現場において、子ども達の実状を見ることで子ども達を多角的に理解する、看護学をベースに特別な支援が必要な子どもも健康な子どもも包括した教育支援の在り方を学ぶ、の2つを挙げました。

まず、田川市立伊田小学校での主な活動として、英彦山での宿泊体験活動、清掃活動支援、運動会の救護・補助等、遠足の支援活動、算数と国語のTA活動を行いました。

写真は宿泊体験活動の写真の一部です(図3)。

この宿泊体験活動で子ども達は、基本的な生活習慣の確立を目指し、集団行動の大切さを学びました。また他学年との交流も行い、その中で学年を越えた友人関係を築いたり、グループの中で役割分担をしながら生活していました。

私たちはその中で、食事・入浴・清掃などの日常生活行動や、各活動での子ども達や先生方のサポートを行いました。

また、運動会や遠足の支援では、先生方の補助として、指導が必要な子どもに個別の関わりをしてきました。一緒に昼食を食べたり遊んだりすることで子ども達と触れ合いました。

そして算数と国語のTA活動では、授業で解いた問題の丸付けや、授業についていけない子どもに対して、個別の指導を行いました。

これらの活動を通して、子どもたちの様々な活動に参加し触れ合う中で(図4)、子どものちょっとした一つ一つの行動にも、その子なりの意味があるということがわかり、子どもの行動を理解するのに役立ちました。

また、それを通して子どもの本音や想いを知ることができ、そして教師活動の素晴らしさと困難さの両面を見ることができました。

次に、福岡県立直方養護学校での活動です(図5)。主に文化祭などに子ども達と共に参加しながら、その子どもの障害や特徴に沿って、個別の支援を行いました。

具体的には、全面介助が必要な子どもに対しては、食事や排泄の介助を行いました。

また、ほぼ生活面で自立している子どもに対しては、見守りという形で支援をしていきました。

活動での学びについてです(図6)。特別な支援が必要な子どもと接することが初めてで、戸惑いはありましたが、一緒に活動をしていく中で自然と関わることができました。

また、短い期間ではありましたが、子ども達とよい関係を築くことができました。

活動全体を通しての学び(図7)。私たちは子どもに対して、“今この子にとって何が必要なのか”、“今の私にできることは”と考え行動することが大切であり、これが個別の支援に繋がるのだと学びました。

また、今回の活動は全て単発的な活動であったので、より子ども達を理解するには、継続的なのかかわりが必要だったのではないかと思います。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

## 学校教育支援活動

学校教育支援ボランティア活動を通して学んだもの、  
見えてきたもの

参加者名：出光由佳、江藤友加、岡村光良子、金瀬夕里奈、  
鎌田裕美子、野見山晴佳、平田美樹、平野由理、  
藤本美紀、山本志織、山本つかさ

1

## 活動目的

- 学校教育現場において、子ども達の実状を見ることで、子ども達を多角的に理解するため
- 看護学をベースに、特別な支援が必要な子どもも、健康な子どもも包括した教育支援の在り方を学ぶ

2

## 田川市立伊田小学校では

<主な活動>

宿泊体験活動の支援、清掃活動支援、  
運動会の救護・補助等、遠足の支援活動、  
算数と国語のTA活動



3

## 活動での学び

- 子ども達の様々な活動に参加し触れ合う中で、子どもの行動を理解するのに役立った。
- 子どもの本音や思い、そして教師活動の素晴らしさと困難さの両面を見ることができた。



4

## 福岡県立直方養護学校では

<主な活動>

文化祭などに共に参加  
個別支援の必要な子どもへの支援



5

## 活動での学び

- 特別な支援が必要な子どもに対しての接し方を学んだ。
- 短期間でありましたが、子ども達とよい関係を築くことができた。



6

## 活動全体を通しての学び

- 子どもに対して、“今この子にとって何が必要か”、“今の私にできることは”と考え行動することが大切である。
- 今回の活動は単発的な活動であったので、より子ども達を理解するには、継続的なかわりが必要だった。



7

# TA 活動( Teaching Assistant Volunteer Circle)

## 日本の小学校を体験

**発表者** 科目等履修生  
(南京師範大学外国語学院日本語学科日本文学専攻2年生)  
丁雨君 嵯 蕾 王 艶

**活 動** 学校教育支援活動

**活動参加** 鎮西小学校 (丁雨君、嵯 蕾、王 艶)  
金川小学校 (張 明、聶漁樵)



向かって左側から王 艶さん、丁雨君さん、嵯 蕾さん

みなさん、こんにちは(図1)。これから、発表させていただきます。

まず、私の大学を皆さんに紹介したいです。

南京師範大学は中国の高等師範教育の起源の一つと言えます。100年以上の長い歴史を持っていて、伝統のある大学です。大学は文化の薫り高い古都・南京の中心に位置しています。

こちらは南京師範大学の写真です(図2)。上の方は、随園キャンパスと随園の風景です。下の方は、学校の仙林キャンパスの図書館です。

学内はよく手入れされて美しいです。四季を通じて、花々の絶えることがなく、古木が茂り、環境は優美で「東洋で最も美しいキャンパス」と称えられています。

キャンパスの面積は合計で200万平方メートルにもなりました。在学学生は2万人以上います。

これから、中国のボランティア活動について、ご紹介させていただきます。

皆さん、ご覧の通り、こちらは上海万博の学生ボランティアの写真です(図3)。右は青海玉樹地震が起こった後、亡くなった人たちを祈っているボランティアの写真です。下の方は、広州アジア競技大会、北京五輪の時のボランティアの写真です。今中国では、このような活動が行われています。

次は、今学期に参加したボランティア活動を皆さんにご紹介させていただきます。

福岡県立大学でボランティア活動が盛んにおこなわれている事を知り、私も何かしたいと思いました。そこで、日本の小学校の仕組みを知ることや、子ども達と一緒にいると楽しい気持ちになれそうなので、小学校の学校支援ボランティア活動

を行うことにしました。12月から王艶さん、嵯蕾さんの三人で鎮西小学校での学校支援活動を始めました。私は、月曜日午前中5年生、午後1年生の教室で教員の補助を行いました。

こちらは、私が通っている小学校に桜が咲いた時の写真です(図4)。きれいな小学校でしょう。下の写真は、担当の先生から小学校のシステムを紹介してもらっている写真です。次の写真は、6年生のクラスで児童に初めての挨拶をしている時の写真です。

このように小学校全体のことを教えてもらいました。

自分が感じた中日小学校の違いをお話させていただきます(図5)。本日、申し上げたいのは、授業の練習問題を採点する仕方、授業中の自由程度、読書タイムの違いです。

まず、①、授業中の練習問題を採点する仕方です。日本では採点する時に、正しければ、○を付けます。間違ったら、×を付けます。しかし、中国の場合は、違っています。中国では、正しければ、チェックのマークを付けます。間違ったら、×を付けます。それで皆さん、こちらの写真をご覧ください(図6)。左側は、中国式で採点された問題用紙です。右側は、日本式で採点された問題用紙です。もう一つの違いがありますが、それは何でしょうか。それは、左側の問題用紙で具体的な点数が書かれていますが、右側の方が書かれていないのです。最初の時にわたしはびっくりしました。それで担当の先生に聞きました。それは児童に自信をつけさせたいと先生から教えてもらいました。

次、②、授業中の自由程度です(図7)。左側の



写真が中国の教室の様子です。右側が鎮西小学校の様子です。中国では、学生はきちんと座っています。メモを取る時間以外に、座る姿勢が決められています。日本では、授業中の私語と歩くことが禁止されていますが、座る姿勢は決められていません。二つの写真をご覧になると、違いが感じられるでしょう。

次に、③、読書タイムです(図 8)。中国では、読書タイムは日本と一緒に、毎朝行われています。しかし、読書の内容と方法が大分違います。中国では、朝の読書タイムに、教科書の朗読をします。左側の写真には、学生たちは口を大きく開け、大きな声を出して朗読している様子が見えるでしょう。それは、目・耳・口を一緒に働かせて、脳に刺激を与え知識を覚えさせると、担任の先生から教えてもらいました。日本では、教室で色々な本がいっぱい置かれています。読書タイムに、子供たちが好きな本を選んで読むことができます。しかし中国では、日本のように自分の好きな本を読むのは別の時間にしています。一方日本では声を出さずに静かに本を読むことを教育

されています。

最後に、私は鎮西小学校の中国語講座を紹介したいです(図 9)。

鎮西小学校でボランティアをする時に、中国語講座を行いました(図 10)。簡単な挨拶を教えました。そこで使った教材を廊下に掲示し、いつでも学習できるようにしています。

次は、5年生に中国のことを紹介する時の写真です(図 11)。この日は、ちょうど中国の大晦日の日だったので、私は、お正月の挨拶と飾り付けを紹介しました。

こちらは、児童と一緒にお正月の「おめでとう」という挨拶の(過年～)を児童と一緒に発音を練習しているところの写真です(図 12)。

このように、鎮西小学校で国際交流ができました。

小学校のボランティア活動を通じて、国々によって、教育方法が違っているのがよく分かりました。

本日の発表は、以上です。長い間、ご清聴ありがとうございました。

# 鎮西小学校のTA活動

南京師範大学外国語学院日本語科  
日本文学専攻

丁雨君（嵯 蕾、 王 艶）

1

## 南京師範大学キャンパス

随園キャンパス



随園の風景



仙林キャンパス



2

## 中国のボランティア活動



上海万博の学生ボランティア



青海玉樹地震のボランティア



広州アジア競技大会



北京五輪

3

## 鎮西小学校でのTA活動



桜の咲いた  
鎮西小学校



打合せ



クラスで顔合わせ

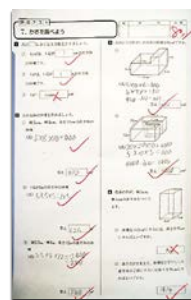
4

## 中日小学校の違い

- ①授業の練習問題を採点する仕方
- ②授業中の自由程度
- ③読書タイム

5

### ①授業の練習問題を採点する仕方



中国式の試験用紙



鎮西小学校の練習用紙

6

②授業中の自由程度



中国の小学生が授業中の様子



日本の小学校が授業中の様子

7

③読書タイム



中国の小学生が読書している写真



日本の小学生が読書している写真

8

鎮西小学校の

中国語講座

9

中国語講座



10

中国のお正月の話



11

発音練習



12

## 活動 少年サッカー指導

発表者 人間形成学科4年生  
上野友梨恵



元気いっぱいの笑顔

こんにちは、人間形成学科4年の上野友梨恵です(図1)。私は、社会貢献活動としての少年サッカー指導についてお話ししたいと思います。

私が少年サッカーの指導を始めることになったのは、大学1年生の秋です(図2)。先輩に連れられて手伝いに行ったサッカー大会で、「指導をしてくれませんか?」と頼まれたことがきっかけでした。サッカーを経験していたこともあり、大学に保育士になるための勉強をしに来ていたので、子どもたちと触れ合うことはいい経験になるかな、と思いはじめることになりました。

具体的にサッカーの指導とはどういったことをするのか(図3)。サッカーの指導や援助を行います。また、そのための指導計画の作成も行います。試合に行くとそこでの引率やコーチングを行います。

当初私は、サッカー指導をするにあたってトレーニングメニューやスキルアップのための方法を勉強していました。もちろん、それは私に求められたことがサッカーの指導だったからです。

しかし、サッカーの指導をしていくうちに、子どもたちは本当に一人ひとり違うのだということを感じるようになりました(図4)。私の指導するサッカースクールは4歳から15歳までの幅広い年齢の子どもたちがいます。元気いっぱいな子ども、真面目だけどひねくれ者、終わりごろにはお母さんが恋しくなって泣いてしまう子供、言葉よりも先にどうしても手が出てしまう子ども、話を落ち着いて聞くことができない子どもなど、発達過程や特徴、個性などが実に様々でした。

ある日、壁にぶつかっている子どもがいることに気づきました。その子は、練習に一生懸命取り組むことができなくなってしまいました。私は、サッカーを教えるということは、経験者なら誰で

も出来るのではないかと思います、サッカーを教えること以上に子どもたちは何かを求めているのではないかと、そのために私は何をすべきなのかを考えるようになりました。

社会貢献という視点から、この一生懸命取り組めなくなってしまった子供とのかかわりを振り返ってみたいと思います。

真剣に練習に取り組まなくなったT君は当時小学校2年生でした(図5)。Tくんはとてもまじめに指導に耳を傾け、口数が少ないけれどもきちんと意見を言うことができました。また、サッカーが大好きで休憩中もいつもボールを蹴っていました。もともと一生懸命練習する子で、とても練習熱心な子でした。

Tくんは環境は5歳から始め、同時期に始めた子が5人ほどいます。Tくんの学年は保護者や監督からもとても期待が高かったです。また同じ学年に明るくて人気者のKくんがいました。この学年が期待されていた理由として、このKくんやその周りの子供たちが、当時サッカーのスキルがむきむきと上達していたことにあります。明るいKくんの行動は他の子どもたちの目にもよく留まっていた。

ある日、Tくんは一生懸命練習する場面や勝負をする場面でも勝負を避けてふざけるようになってしまいました。この行動を見て私に今できることは何だろうか、Tくんのために何かしたい何ができるのかということを考えました。

そこで私は、Tくんと二人で話をすることにしました(図6)。Tくんはその時ふざけたり逃げたりせずに、私と話をすることに応じてくれました。

私はTくんに、「最近一生懸命練習しなくなったけれど、どうしたの?」と尋ねたところ、当時2